

中野 純 陶芸展

— 旧工房にて vol.2 —

同時開催：「地震学者・中野 廣のこと」

2023.11.15 [wed] - 28 [tue] 10時 - 18時 (会期中無休)

立野窯 旧工房

JR/京王井の頭線 吉祥寺駅北口より
西武バス「立野町」下車徒歩4分



このたび、練馬区立野町にある旧工房にて個展を開催することになりました。

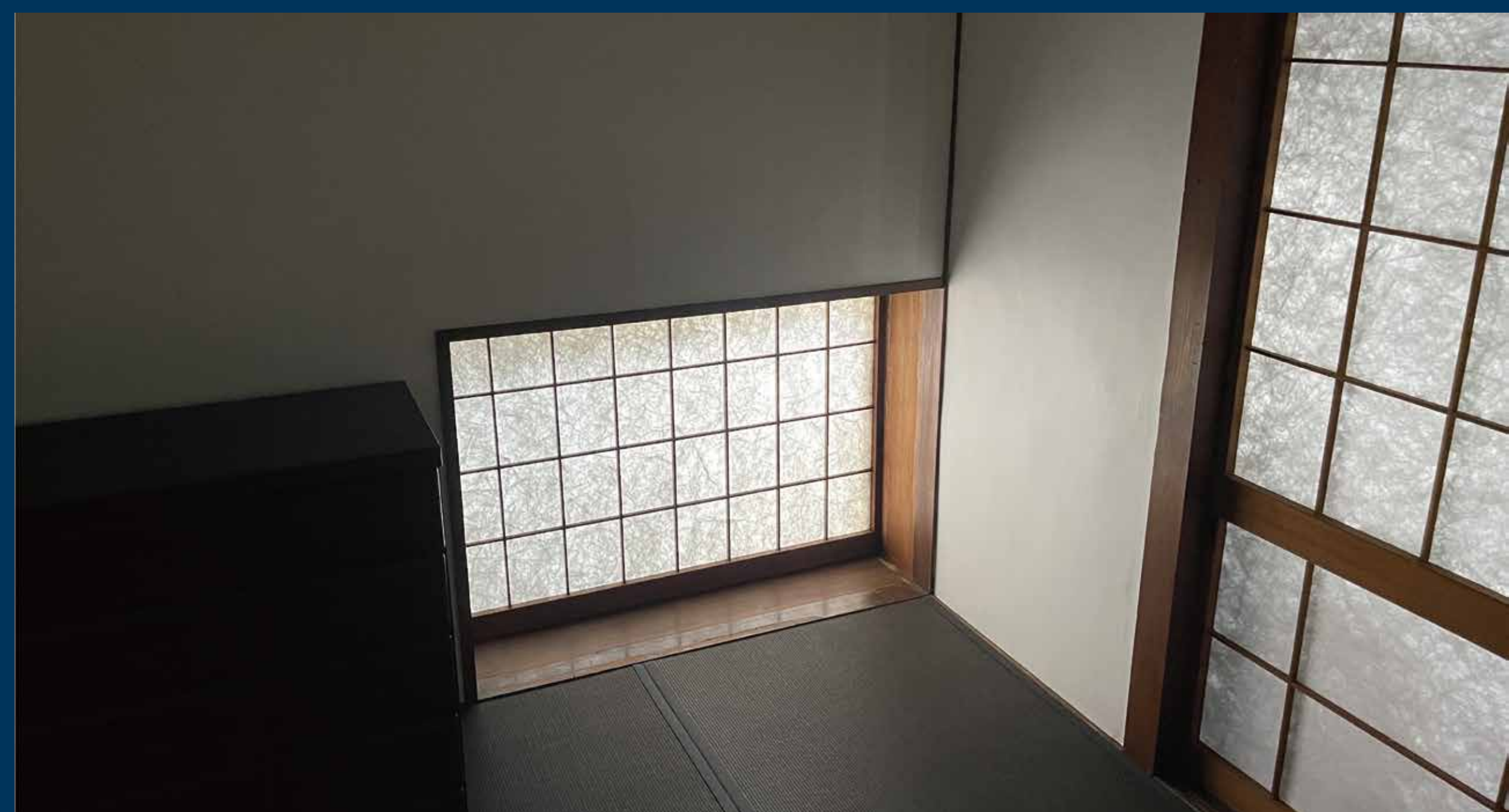
2006年末に千葉県長柄町に移るまで制作の場としていた旧工房は、もともと中野の祖母や叔母、そして独身時代の父が暮らしていた、木造平屋の小さな家です。

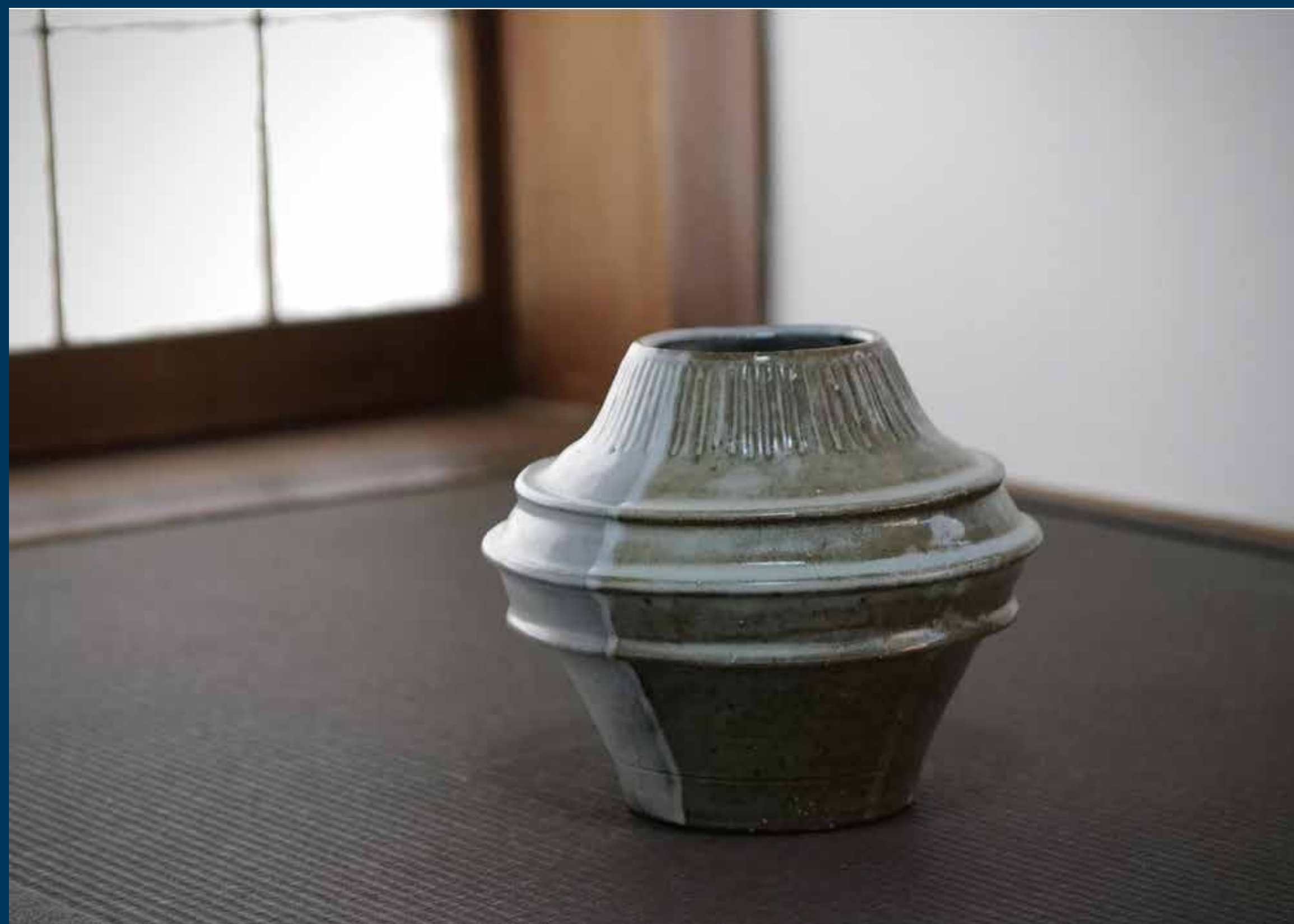
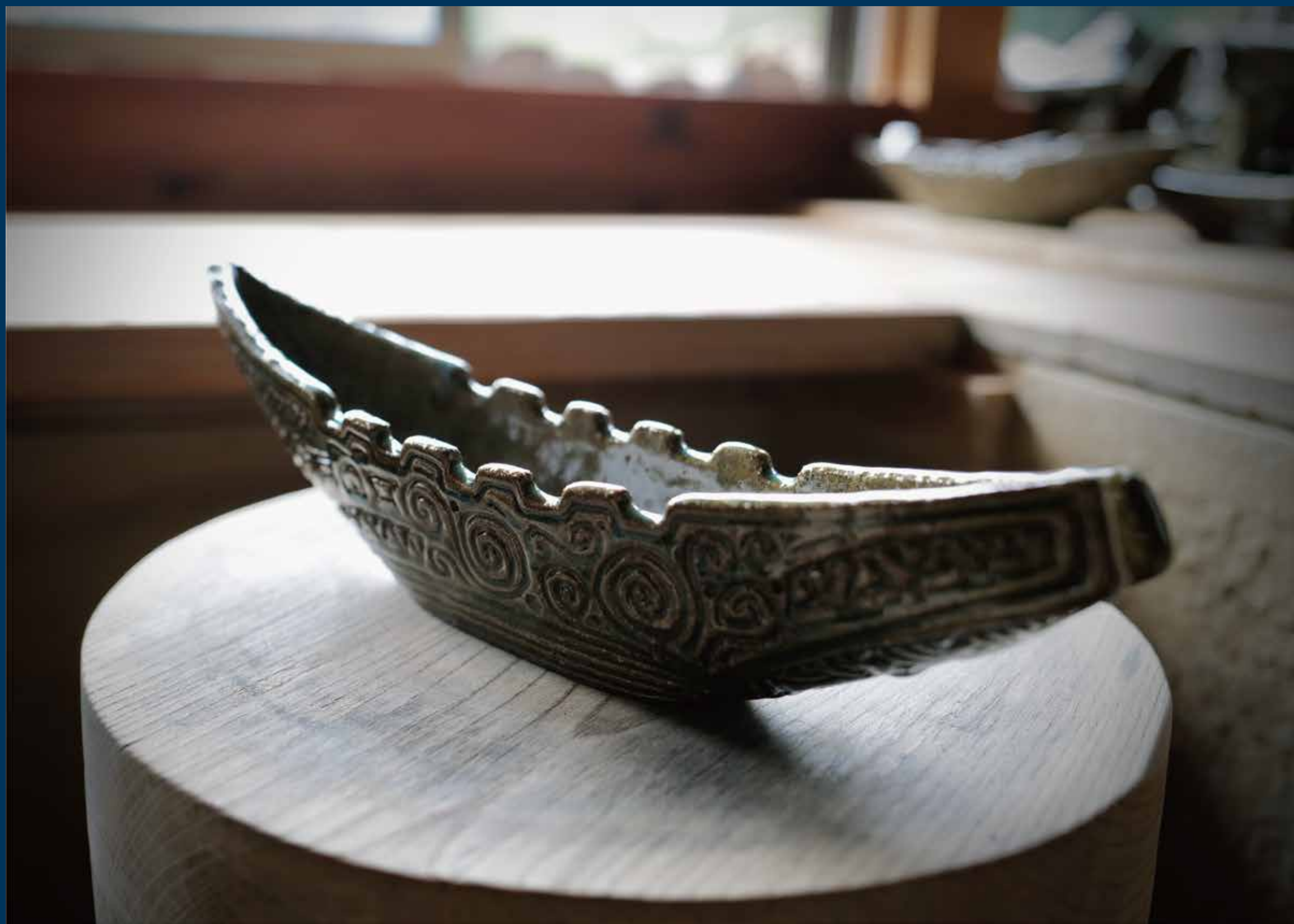
家族の思い出詰まったこの家で個展をすることは、中野にとって大切な試みです。こうして展示の場として生かすことで家に新たな命を吹き込みつつ、見に来てくださる方にはこれまでの個展とはまた趣きの異なる、民家ならではの設えを楽しんでいただけたら、と願っています。

また今回は、今年が関東大震災から100年の節目ということで、中野の祖父である地震学者・中野廣に関するミニ展示も予定しています。

最寄の吉祥寺駅からも離れ、住宅地でわかりづらい場所ではありますが、お時間ありましたらお出かけいただければ幸いです。

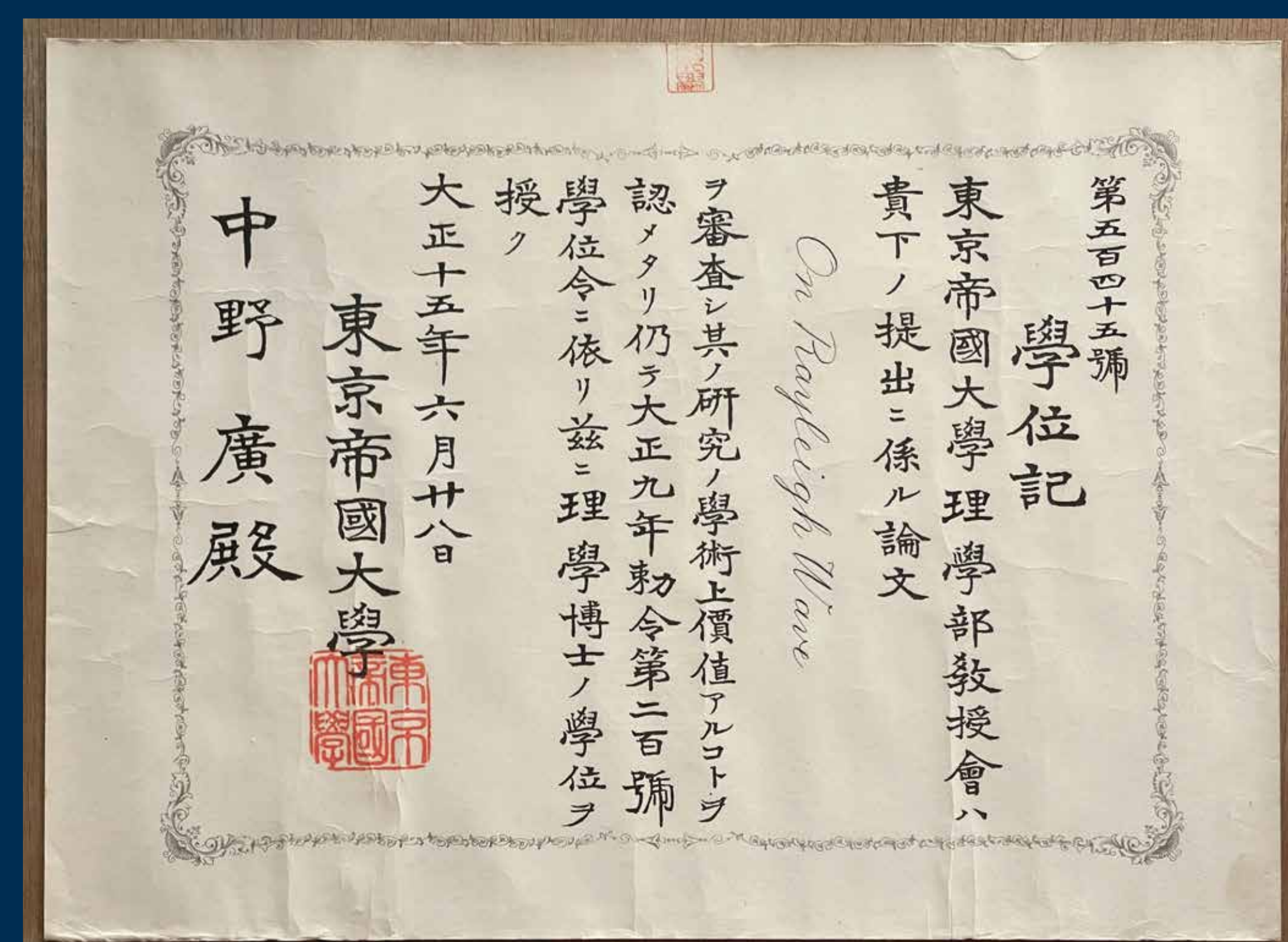
中野 純





●コーナー展示「地震学者・中野 廣のこと」

中野純の祖父、中野廣（1894—1929）は名古屋生まれ、東京帝国大学理学部物理学科を卒業し、中央气象台（現・気象庁）に勤務した地震学者です。今から100年前の1923年、廣が発表した論文“Notes on the Nature of Forces which give rise to the Earthquake Motions.”は、それまでの統計学的研究から地震発生メカニズムを解明する物理学的研究へ踏み出す論文として、その2年後に発表される“On Rayleigh Wave”とともに高い評価を受けました。現在も内外の地震学の教科書で、地震学史に残る功績として紹介されています。病弱のため、研究道半ばにして35歳で早逝しましたが、関東大震災から100年の節目にあたり、写真、手紙、博士号学位記、研究メモなど、地震学者・中野廣ゆかりの品を展示します。



[中野純 (なかのじゅん) 略歴]

1972年 千葉県生まれ 1995年 練馬区立野町に工房開設、地名から立野窯と名付ける。2000年 東京・松屋銀座にて初個展。以後、名古屋、広島、福岡、金沢、富山、仙台など各地で定期的に新作展を開催。また、特別展として2013年には石川国際交流サロン(金沢市)にて「中野純 × 蓬萊軒 - 中野純が作るあつた蓬萊軒の会席の器 -」、2016年には白鳥庭園(名古屋市)にて「うつわあそび」を開催し好評を得る。

2007年より千葉県長柄町に工房を移転。自然に囲まれた暮らしの中、蹴轆轤と天然灰釉の風合いを大切に制作している。

www.junnakano.com

アクセス

○JR線・京王井の頭線 吉祥寺駅北口4・5・7・8番乗り場より、西武バス [吉60] [吉61] [吉62] [吉63] [吉64] [吉66] にて「立野町」(たてのちょう)下車、徒歩4分。(吉祥寺駅より徒歩23分)

※吉祥寺駅北口発のバスは西武バスと関東バスの2社があり、**吉祥寺駅北口発の西武バスはすべてのバスが「立野町」を通ります**(関東バスは「立野町」を通りません。関東バスに乗らないようご注意ください)

※「立野町」のバス停は、吉祥寺駅を出発してから4つ目です。

※駐車場のご用意はありません。お車の際は、近隣のコインパーキングをご利用ください(地図参照)。

※小さな民家のため、混雑時は外でお待ちいただく場合があります。



立野窯 旧工房 〒177-0054 東京都練馬区立野町18-13
お問い合わせ/メール info@junnakano.com